

平成24年

2月26日(日)▶3月11日(日) ※3月1日(木)は休館日

会場:都立中央図書館(4階企画展示室・多目的ホール) **入場無料**

東京メトロ日比谷線広尾駅から徒歩8分(有栖川宮記念公園内) TEL 03 (3442) 8451 (代)

3月16日(金)▶3月28日(水) ※3月19日(月)、3月26日(月)は休館日

会場:遠野市立博物館(企画展示室) **入場料一般310円**

JR釜石線遠野駅から徒歩8分 TEL0198-62-2340

〈企画展関連イベント〉

東京

オープニング
セレモニー

鶴住居虎舞



日時 **2月26日(日)** 9:30~10:00

会場 有栖川宮記念公園特設ステージ [都立中央図書館隣]
(雨天時、都立中央図書館玄関前)

内容 釜石・鶴住居虎舞披露等
※鶴住居虎舞は、11:00にも同会場で披露されます

対談 東日本大震災と
文化復興



赤坂 憲雄



三浦 佑之

日時 **3月4日(日)** 13:30~15:00

会場 都立中央図書館(4階研修室)

定員 100名
申し込み先は遠野文化研究センター、往復はがきに希望する催し名・住所氏名(フリガナ)・電話番号を記入し郵送(2月17日消印有効)、抽選により決定、入場無料

出演 赤坂憲雄(遠野文化研究センター所長・学習院大学教授)
三浦佑之(立正大学教授)

ギャラリートーク

日時 **3月10日(土) 11日(日)** 11:00~、13:00~、15:00~

会場 都立中央図書館(4階企画展示室・多目的ホール)

内容 遠野市立博物館学芸員による展示解説

岩手

文化財レスキュー
フォーラムin遠野

日時 **3月22日(木)** 13:00~16:30

会場 遠野市立図書館(視聴覚ホール)

定員 70名
申し込み先は遠野文化研究センター、往復はがきに希望する催し名・住所氏名(フリガナ)・電話番号を記入し郵送(3月10日消印有効)、先着順、入場無料

現地視察

日時 **3月23日(金)** 8:30~15:30 (8:15 遠野市立図書館前集合)

内容 岩手県三陸沿岸の被災した博物館などの視察

定員 20名
申し込み先は遠野文化研究センター、往復はがきに希望する催し名・住所氏名(フリガナ)・電話番号を記入し郵送(3月10日消印有効)、先着順、参加無料

●主催 「震災からよみがえった東北の文化財展」実行委員会

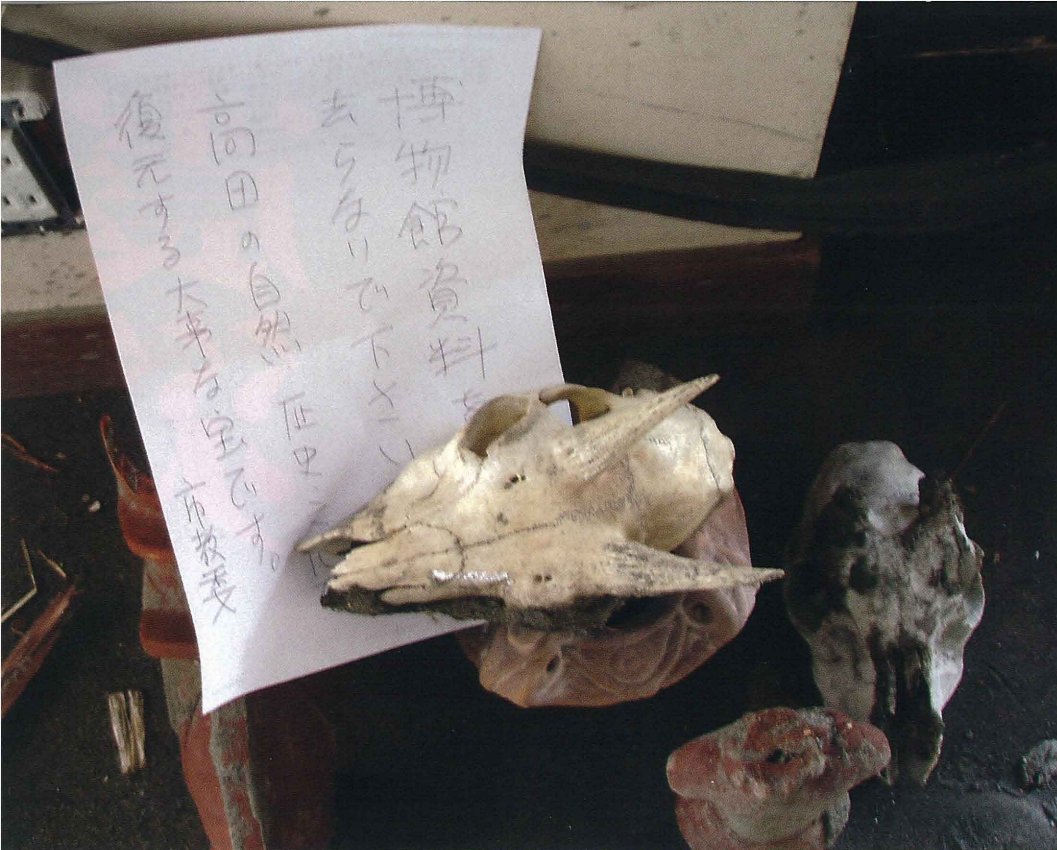
遠野市(遠野文化研究センター・博物館)
陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町、山田町、宮古市
東京都立中央図書館、日本ミュージアム・マネジメント学会
NPO法人日本子守唄協会

●お問合せ 遠野文化研究センター

〒028-0515 岩手県遠野市東館町3-9 遠野市立図書館博物館内
TEL 0198(62)2340 FAX 0198(62)5758
E-mail tono100@city.tono.iwate.jp

平成23年度ミュージアム活性化支援事業(文化芸術振興費補助金)

震災からよみがえった東北の文化財展



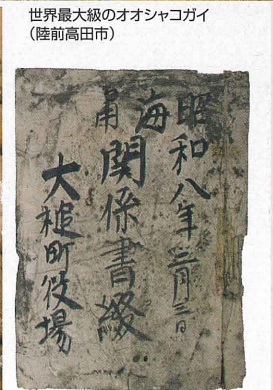
陸前高田市立博物館内の書置き「博物館資料を持ち去らないで下さい」



世界最大級のオオジャコガイ
陸前高田市



注記のある土器片(陸前高田市)



昭和8年津波記録(大植町)

対談 東日本大震災と文化復興



赤坂 憲雄 (あかさかのりお)

学習院大学教授・遠野文化研究センター所長・福島県立博物館館長。

1953年東京都生まれ。東京大学文学部卒業。東北芸術工科大学・同東北文化研究センター所長を経て、現職。

2011年4月、東日本大震災復興構想会議委員に就任。

民俗学をベースに東北の文化や歴史を掘り起こす「東北学」を提唱。1999年責任編集による『東北学』(作品社)を創刊。現在は『季刊東北学』(柏書房)として刊行が続いている。「東北学」の活動により、河北新報社の河北文化賞(2008年)や宮沢賢治学会のイーハトーブ賞(2003年)などを受賞。また、著書『岡本太郎の見た日本』によって2007年にドゥマゴ文学賞、2008年には芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。著書に『民俗学と歴史学』、『東北知の鉱脈』、『異人論序説』、『山の精神史』、『山野河海まんだら』、『遠野/物語考』他多数。2010年1月、三浦佑之氏との共著で、『遠野物語へようこそ』を出版。



三浦 佑之 (みうら すけゆき)

立正大学文学部教授

1946年三重県生まれ。古代文学・伝承文学専攻。成城大学大学院博士課程単位取得修了。成城大学・共立女子短期大学・千葉大学を経て2009年4月より現職。

1998年、『遠野物語』の説話分析を中心とした『村落伝承論—遠野物語から』で第5回上代文学会賞、2003年にベストセラーとなった『口語訳 古事記』で第1回角川財団学芸賞、受賞。古事記ブームの火付け役となった。

著書は、上記以外に、『浦島太郎の文学史』、『万葉びとの「家族」誌』、『神話と歴史叙述』、『古事記講義』、文庫版『口語訳古事記 神代篇』『同人代篇』、『日本古代文学入門』、『金印偽造事件』、『古事記のみみつ』など多数。その他、『遠野物語』に関連したものとして、共編の『柳田國男事典』、2010年には赤坂憲雄氏との共著『遠野物語へようこそ』を刊行。2011年6月、遠野文化研究センター顧問に就任。

オープニングセレモニー

うのすまい 鵜住居虎舞(釜石市)

岩手県沿岸に数ある虎舞のなかで岩手県釜石市の「鵜住居虎舞」は、江戸時代中頃に伝わったといわれ、「鵜住居神社」御神体のお供役として「鵜住居青年会」が継承している。

「虎は千里行って千里帰る」と言われる事から、航海と操業の安全を祈願して、古くから大いにもてはやされ、縁起物として祝いの席でも踊られている。虎頭を使った舞は「雌虎」と称され、舞い方は優雅で、太神楽の囃子を取り入れたとされている。演目は全部で30種あり、虎頭を使った舞の他に手踊りや万歳、神楽なども数多く踊られているのも特徴である。

東日本大震災では、稽古場や山車などが流失してしまったものの、数多くの方々のご支援により、この虎舞の保存・継承につとめている。



【演目の紹介】

- ① 通り囃子ぼやし —— 神社仏閣などにお参りに向かう際に囃される。また、舞の始めと終りに囃される。
- ② 矢車やくらま —— 春うららかな日差しを浴びた虎が無心に遊び戯れる様子を踊りにしている。又、この名の由来は、クルクルと回る5月の鯉巻の矢車が、太鼓のバチ捌きに似ていることからその名がついたと言われている。
- ③ 跳ね虎は —— 獵師に追われた虎が手負い虎となり、荒れ狂う様子を踊りにしている。
- ④ 笹喰みささば —— 虎の武器である牙を笹で磨く様子を踊りにしている。
- ⑤ 甚句しんく —— 鵜住居虎舞には、手踊りが数多く伝えられているが、その中でも素朴で必ず演目の終りに踊られる手踊りである。
- ⑥ 通り囃子ぼやし —— 神社仏閣などにお参りに向かう際に囃される。また、舞の始めと終りに囃される。